

限らず農薬類の開発には、かなり巨額の費用を必要とするものであろう。夫々の企業では、その回収には万全な対策を準備していくわけにならう。除草剤に限っても、それぞれのライフサイクルには慎重な配慮が進んできた。

イ. 合成～選択の側面：○効果の高い剤へ

○欠陥の少ない剤へ ○残留毒性の低い剤へ

この方向で苦勞して合成され、選択された結果、以前にくらべ高い効果を備えた剤が多く、代表例としては一発処理剤といえよう。

ロ. 実際の流通過程からみた側面：○水質汚濁からの制約 ○雑草生態変化からの制約

○コストダウン機運への対応

適否テスト段階では、ロの場面を吟味しても不十分かもしれない。最近の例からでも同一剤が広域的に、しかも集中的に使用された結果、水質汚濁の指摘をうけ、後退したケースがあった。また一連の高効果剤使用も、雑草生態の変化を誘導している兆も確実に現われだしている。同一剤の集中使用には、問題が残るようである。大きな投資を無駄にしないように、節度ある普及が必要だろう。

参考迄に防除農薬の場合には、耐性現象の関係もあり、3年を一応の目途にして、剤の更新を農協関係者と打合せて、県内で効率的な流通をはかってきたが、ある程度の範囲でこの構想は進行してきた。レース別抵抗性の事柄を取扱ってきた体験から、対応しやすい場合であったが、実際には仲々容易ではなかった。この体験を基にして、除草剤の採否に対応してきたが、防除農薬の場合よりも難かしい。しかし、末端の場面では、防除農薬の場合に類似してきたことも事実だ。

所謂コストダウン機運との対応については、具体的な方策は見当らない。今後、殺草効果を

若干やわらげても、価格のやや低い剤の出現を待望したい。開発費も、副作用・残留性の心配も低まるだろう。結果としてライフサイクルの延長に連なるのではないか。いかがなものか。

おわりに

最近、新潟県内の各農協の活動状況経過をとりまとめたところ、防除農薬類・除草剤類の取扱金額総計は、肥料関係の金額総計を上回る傾向を示してきた。実はながい年月の間、肥料関係の取扱金額の優位にあった傾向を修正した。その結果を知って、関係者共々目のさめる想をした。これには、防除農薬類は年次により、非常にふれるから、除草剤類の取扱い総量の拡大——田毎に散布実施、この点肥料と類似——が徹底したことも主因としてかかわっている。

技術効果というか、技術改善の影響が大きい地域程、除草剤の取扱金額の比重が高まっていることも、大変興味深い。これ迄植調を中心とした関係者の方々がご苦勞された影響が、末端迄定着したのかと思った次第である。

植調協会だより

◎ 第54回役員会開催す

昭和62年12月23日(水)15時より、植調会館3階会議室において開催し、次の議案につき審議された。

第1号議案 役員人事の件

宗展生理事(農薬工業会)・松田寿郎理事・宮田喜次郎理事(東海支部長)・井上利志業理事(九州支部長)の各氏が退任し、小平祐(農薬工業会)・相賀幸雄(日本罐詰検査協会)・太田孝(元静岡県農業試験場長)・高岡留吉(元熊本県農業試験場長)の各氏が理事に選任され

た。また長田耕栄監事が退任し、芦澤賢一氏(農林弘済会)が監事に選任された。

第2号議案 任期満了に伴う役員改選の件
理事・監事の任期満了による退任および選任が行われ、次の者が新役員に選任された。

【理事】 吉沢長人(会長・専務併任)、吉田孝二(常務)、中山兼徳、相賀幸雄、家木裕隆、石倉秀次、太田孝、國武正彦、小島雄次、小平祐、佐藤彰夫、渋谷正弘、島崎佳郎、瀬島基太郎、高岡留吉、高橋省吾、高橋長二、西貞夫、浜宏幸、原田哲夫、早川充、福田紀文、福田秀夫、星鉦治、増淵保二、松下広晴、森本至郎〔以上27名〕。なお太田孝は東海支部長、高岡留吉は九州支部長を併任。

【監事】 芦澤賢一、難波梶良〔以上2名〕。

第3号議案 諸規程の一部改正の件
諸規程のうち、組織・事務分掌および職制に関する規程、経理規程、就業規則および給与規程の一部改正が承認された。

◎ 人事異動

昭和63年1月1日付

命 研究所次長兼第一研究室長	柴谷得郎
命 企画調整室長兼務、免技術第一課長兼務	則武晃二
命 技術第一課長	山崎和己
命 技術第三課長兼務	竹下孝史
命 総務部会計課長代理	佐藤悦史
命 研究所化学研究室長代理	塚本伸也
命 総務部へ配置換 主事	花岡明人
命 事務局技術部へ配置換 技師	高橋宏和
委嘱 九州地区技術顧問	井上利志栄

付記、組織で新しく改正された点は、きびしい

農業情勢に対応するため、事務局に企画調整室を設置し、また非農耕地関係を対象として事務局に技術第三課を、研究所に第三研究室を設置

した。

◎ 会議開催日程のお知らせ

・昭和62年度りんご関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日時：昭和63年2月1日(月) 10:00～17:00

場所：番町グリーンパレス(千代田区二番町2, TEL. 265-9251)

・昭和62年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日時：昭和63年2月2日(火) 10:00～17:00

場所：番町グリーンパレス

・昭和62年度茶園関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日時：昭和63年2月4日(木) 13:30～17:00

場所：植調会館会議室(TEL. 832-4188)

・昭和62年度非農耕地関係除草剤・生育抑制剤試験成績検討会

日時：昭和63年2月18日(木) 10:00～17:00

場所：植調会館会議室

・昭和62年度常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日時：昭和63年2月26日(金) 10:00～17:00

場所：たちばな会館(静岡市緑町10-30, TEL. 0542-46-7488)

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 東京(03) 832-4188(代)

昭和63年1月発行

植調第21巻第10号 定価400円(送料170円)

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03) 833-1821番(代)